

第四章 在滿朝鮮人ノ歸化問題

一 朝鮮人ニ重國籍問題ノ淵由

朝鮮ニハ未タ國籍法ヲ施行セラレヌ從テ朝鮮人ハ外國ニ歸化スル
 モ我國籍ノ喪失ヲ認メラレス之レ韓併合ノ際成ルハク舊慣ヲ重
 ンスル方針ノ下ニ目國民ノ外國歸化並外國人ノ目國民化ヲ認メサ
 リシ韓國政府ノ傳統の方針及慣習ヲ併合後ニ於テモ踏襲シテ今日
 ニ及ヒタルモノナリ然ルニ滿洲ニ移住セル朝鮮人ニシテ各般ノ理
 由ニ依リ支那國籍ヲ取得シタルモノ尠カラズ是等朝鮮人ハ必然ニ
 重國籍ヲ有スルコトトナリ日支双方一方面的ニ之ニ對スル支配權ヲ
 主張シテ紛糾絶ユルコト無ク其ノ結果朝鮮人ノ二重國籍問題ハ對
 內的ニモ對外的ニモ早クヨリ重要視セララルルニ至レリ

在滿朝鮮人ノ生活安定策トシテ從來或ハ國籍法ヲ朝鮮ニ施行シ朝鮮人ニ對シ歸化ノ自由ヲ認ムヘシト主張スル者甚カラス然レ共假リニ朝鮮人ニ歸化ノ自由ヲ認メタリトセムカ例ハハ簡島ノ如ク支那側力在任朝鮮人ヲ其ノ行政下ニ服セシムルコトヲ熱望スル地方ニ在リテハ支那側ノ歸化強要益々盛トナリ事實上簡島ニ於ケル朝鮮人ノ大部分ハ支那人トナリ簡島ニ於ケル我施設二十年ノ基礎ヲ一變ニ破壞スルノ結果ヲ來スヘク又其他ノ地方ニ在リテハ支那側力歸化ノ條件ヲ嚴重ニ勵行スヘキ結果朝鮮人中入籍ヲ認メラルル者ハ充分ナル資格ヲ有スル比較的優良分子ニ限ラレ無資産浮浪ノ徒ハ目ラ淘汰セララルコトトナルハ必定ニシテ何レニスルモ我方ニ利益アル結果ヲ來ササルノミナラス入籍朝鮮人ニ對スル支那側ノ

待遇ハ到底自國民同様ナルヲ期待シ得ヌ從テ之ニ依リ朝鮮人ノ生
 活安定ヲ招來スルモノト云フヲ待サルヘシトノ反對論亦有力ナリ
 他面帝國トシテ朝鮮人ニ對シ早急ニ歸化ノ自由ヲ許容シ得ザリシ
 他ノ重大ナル事出ハ所謂不逞鮮人ニ對スル取締上ノ必要ニ在リ即
 チ民族主義者乃至共產主義者等ノ朝鮮人不逞分子ハ常ニ國外ヨ
 リ我カ朝鮮統治進ムテハ帝國ノ安寧其ノモノニ對シ重大ナル脅威
 ヲ與ヘツツアリ殊ニ滿洲方面ニ在ルモノノ策動ニ至リテハ朝鮮ニ
 對シ直接ノ影響ヲ及ボスモノナルヲ以テ我出先旨憲ニ於テハ銳意
 之カ取締ニ努メ來レル次第ナルカ若シ其等不逞分子ニシテ完全ニ
 日本國籍ヲ離ルルヲ待ムカ之ヲ追及シテ取締ノ實ヲ舉グルニ由無
 キニ至ルヘキコト極メテ賭易キ所ナリ朝鮮總督府警務當局トシテ

從來此ノ見地ヨリ朝鮮人ニ對スル歸化權許容ニ反對シ來レルハ故
無キニ非スト謂フヘシ

要之朝鮮ニ對シ未タ我國籍法ヲ施行スルニ至ラサルハ一ハ併合ノ
結果トシテ朝鮮人ノ身分及地位ニ急激ナル變化ヲ與ノルヲ出來得
ル限リ避タルノ方針ニ出テタルト他ハ不逞分子取締上其ノ日本國
籍喪失ヲ許容シ雖キ實際上ノ必要アリタルコトニ因ルモノト謂フ
ヲ得ヘキモ右ハ帝國政府トシテモ決シテ絕對不變ノ方針トシテ固
執スルモノニ非ザルヲ以テ其ノ茲ニ至リタル事由ノ除却又ハ變更
ヲ見ルニ至ラハ自ラ歸化權問題ニ關スル帝國ノ態度ニモ改變ヲ來
スコトハ有リ得ヘキ所ナリ

ニ朝鮮人ノ歸化ニ關スル支那側態度

支那官憲ハ當初ヨリ朝鮮人カ日本ニ頼ルヲ喜ハス之ヲ歸化セシメ以テ支那國民トシテ之ヲ治ムルニ如カスト爲シ歸化ニ依ル利益ヲ好餌トシテ之ヲ懷柔シ場合ニ依リテハ威力ヲ以テ之ヲ強要スルノ態度ニ出テタル結果朝鮮人ニシテ歸化スル者尠クサリシモ支那側モ漸次朝鮮人ノ歸化ヲ撰フ眞意カ決シテ支那國民タルヲ欲スルニ非スシテ多クハ其ノ身邊ノ安全ヲ計リ又ハ土地所有權ヲ取得スルノ方便ニ供スルニ外ナラサルヲ察知スルト共ニ歸化朝鮮人ノ取得シタル土地所有權カ更ニ日本人ニ轉賣セラルルノ惧アリトノ疑念ヲ挾ムニ至ルヤ畢竟朝鮮人ノ懷柔策ハ單ナル歸化ニノミ頼リ得サルヲ感知シテ近年ハ其ノ歸化ヲ歡迎セサルノミナラス大ニ慎重ノ調査ヲ遂ゲタル上ニ非サレハ許可セサルノ態度ヲ採ルニ至レリ而

シテ歸化朝鮮人ニ對スル支那側ノ取扱振ヲ見ルニ之ニ對シ土地所有權ヲ認メ且百戶長、郷長、郷副長等ノ公職ニ任命スル等ノ特典ヲ與ハ居ル地方アルモ一般的ニハ支那人同様ノ國民待遇ヲ與フルコト無カリキ

從來ニ於ケル支那官憲ノ朝鮮人歸化ニ對スル取扱振ヲ見ルニ民國十一年制定ノ舊國籍法ニ於テハ外國人ノ歸化ヲ許可スルニハ其ノ本國國籍ノ喪失ヲ必須條件トシ（第四條第二項第五號）居リ而シテ朝鮮人ハ日本國籍ヲ喪失スルコト不能ナルニ不拘民政部ニ於テ朝鮮人ノ歸化願出ヲ受理シ擅ニ之ヲ許可スルカ如キ違法處分ヲ爲シテ願ミサリキ而シテ右ニ對シテハ支那側ニ於テ國籍ノ得喪ハ其國ノ國籍法ニ依リ定マルモノナルカ故ニ日本國籍法ノ適用無キ朝

鮮人ハ國籍ノ得喪ニ關シテハ無國籍人トシテ見ルヘキモノニシテ
 從テ舊國籍法上ニ於テモ第四條第一項ニ依リ支那國籍ヲ取得シ得
 ヘキモノナリト云フカ如キ曲辯ヲ弄シ韓國併合ニ依リ朝鮮人カ帝
 國臣民タルノ身分ヲ取得シタル儼然タル事實ヲ無視スルノ妄斷ヲ
 敢テスルヲ例トセリ

民國十八年二月改正ノ新國籍法ニ於テハ舊法ニ認メラレサリシ二
 重國籍容認ノ主義ヲ採用シ支那側ヨリスレハ日本國籍法上日本國
 籍ヲ喪失シ得サル朝鮮人モ亦同法第三條第二項ノ各條件ヲ具備ス
 ル以上適法ニ支那國籍ヲ取得シ得ルノ途ヲ拓キ朝鮮人ニ重國籍問
 題ヲ益々紛糾セシムルノ端ヲ開キタリ

三 歸化問題ニ對スル朝鮮人ノ態度

朝鮮人歸化問題ニ關シテハ朝鮮人中或ハ滿洲ノ現情ニ不拘支那國籍ヲ取得セムト希望スル朝鮮人ニ對シテハ其ノ自ラ危險ヲ負擔スルモノナルカ故ニ之ヲ許容シテ可ナリト爲シ或ハ單ナル内鮮人差別待遇打破ノ見地ヨリ國籍法ヲ朝鮮人ニ適用セサルハ重大ナル差別待遇ナリト爲シ又或ハ日本官意ノ朝鮮人ニ對スル保護不十分ナル爲却テ支那官意ヨリ壓迫セラルルモノアリ日本ニシテ在滿朝鮮人ニ對スル保護ヲ徹底セシムルヲ得サルニ於テハ寧ロ日本ノ保護ヲ脱シテ支那ノ權下ニ服スルニ如カスト爲スカ如キ諸權ノ積極論ヲ見タリ殊ニ民族主義者ハ其ノ存立ノ方便上歸化許容ヲ要求シ土地所有權其他ノ權益取得ヲ欲スル者モ亦同様ノ主張ヲ爲スヲ見タルモ何レモ支那ノ文物制度又ハ其ノ國柄ヲ憧憬シ眞箇ニ支那人タ

ラムトスルノ願望ニ發足スルモノニ非サルハ勿論朝鮮内地又ハ日本内地ニ在住スル有識階級朝鮮人並滿洲ニ於テモ我官憲ノ保護比較的行能ケル地方ニ在住スル朝鮮人等ニ至リテハ差別待遇ニ對スル不滿ヲ藏シツツモ多クハ歸化許容ニ反對ノ意向ヲ有スルモノト見ルヲ得ヘシ蓋シ歐籍法朝鮮ニ施行セラレ朝鮮人カ歸化ノ自由ヲ許容セラルルル曉ニハ在滿朝鮮人ニ對スル支那官憲ノ歸化強要益々甚シキヲ加ヘ而モ支那側トシテハ歸化ノ許可ニ當リ其ノ財力、人物等ノ資格ヲ嚴選スヘキハ當然ナルヲ以テ其ノ結果在滿朝鮮人中素質優秀ナル者ノミ支那ニ歸化シ無資産又ハ無賴浮浪ノ徒ノミ多ク残留スヘク斯クノ如クナルニ於テハ例ヘハ開島等ニ於ケル朝鮮人努力ノ所産ハ大部分支那ノ權下ニ移サルルニ至ルヘキヲ察知ス

ルカ爲メナルハシ現ニ最近ノ實例ニ徴スルモ昭和二年在滿朝鮮人
 壓迫問題ノ喧傳セラレタル際日本政府カ朝鮮人問題解決ノ目的ノ
 爲餽給法ヲ朝鮮ニ施行スルノ準備中ナリトノ報道傳ハルヤ在滿各
 地朝鮮人間ニ一大動搖ヲ來シ從來積極論ヲ唱ヘタル者マテモ反對
 スルニ至レル事實アリ又日本政府ノ保護不充分ヲ不滿トシ來レル
 一部朝鮮人中ニ於テモ此際卒然朝鮮人ニ對シ歸化權ヲ許容スルカ
 如キハ日本政府カ朝鮮人問題ノ煩ニ堪ヘス一切之ヨリ手ヲ退カン
 トスルモノナリトノ曲解ヲ抱クモノ尠シトセス
 斯クノ如クニシテ朝鮮人ニ對スル歸化權許容ノ問題ハ今日未タ充
 分論究ヲ盡サレタル域ニ到達シ居ラサル所ナルカ前記各般ノ關係
 ヨリ支那籍ヲ取得シ居ル朝鮮人ハ相當多數ニ上ルヘク歸化數最多

キ間埠四縣ヲ始メ滿洲全体ヲ通シ少クトモ在留朝鮮人ノ約八分ハ支那國籍ヲ取得シ居ルモノト推定セラル

四 滿洲ノ新事態ノ下ニ於ケル朝鮮人歸化問題ノ調整ト滿洲國ノ態度昭和七年三月滿洲國成立スルヤ其ノ建國宣言ニ於テ凡ソ新國家ノ領土内ニ居住スルモノハ皆種族ノ岐視尊卑ノ分別無シト爲シ、人權保障法第三條ニ於テモ滿洲國人民ハ種族宗教ノ如何ヲ問ハス總テ國家ノ平等ナル保護ヲ享クヘキ旨ノ規定アリ而シテ同國ノ成立カ五族共和及住民自決ノ主義ニ基クモノナリト爲サルル點ヨリ見テ或ハ新國家成立ト同時ニ其ノ版圖内在住日本内地人及朝鮮人ニモ悉ク其ノ國籍ヲ取得セシムヘシト爲ス積極論アルカ如キモ斯クノ如キハ日本人ハ此際進ムテ滿洲國人トナリ其ノ國勢伸長ニ參劃

スルノ意氣込無カル可ラストノ道義論ニ過キスシテ日本國籍法上
 認容シ待サル所ナリ唯從來支那國籍ヲ取得シ居リタル朝鮮人ニ在
 リテハ新國家成立ト同時ニ滿、漢、蒙諸族ト同列ニ其ノ國民トナ
 リタルモノト推論シ待ヘキニ似タルモ此場合ニ於テモ朝鮮人ノ外國
 歸化ヲ認メサル日本トシテハ是等歸化朝鮮人カ直チニ新國家ノ國
 民ト成リタルモノト認ムルヲ得ス

即チ滿洲國ニ對スル關係上日、鮮兩民族ハ理論上飽ク迄外國人タ
 リ其ノ滿洲國民タルカ爲メニハ其ノ國籍ヲ取得セムトスルノ意思
 表示ヲ爲ササル可ラス滿洲國內ニ在住スル日本内地人及朝鮮人カ
 如何ナル時機ニ如何ナル方法ニ依リ其國籍ヲ撰擇スハキカハ滿洲
 國ノ法制ニ從ハサル可ラサル所ニシテ即チ滿洲國ニ於テ國籍法ヲ

制定シタル上其ノ條項又ハ之ニ依準スル單行法令ニ依リ一定ノ手續及期間ヲ定メテ其ノ撰擇ヲ爲サシムルノ順序ヲ履マサル可ラス日本内地人カ滿洲國ニ歸化セムトスル場合ニハ單ニ同國ノ國籍法ニ依リ歸化ノ手續ヲ執ルヲ以テ足り即チ日本現行國籍法上之ニ依リ日本ノ國籍ヲ喪失シ完全ニ滿洲國民タルヲ得ヘシ然レトモ朝鮮人ニ在リテハ日本國籍法ノ適用無キ關係上新國家ノ國籍ヲ撰擇シ之ヲ取得スルモ日本國籍ヲ失ハサルカ故ニ三重國籍者トナリ其ノ關係ハ從來支那國籍法ニ基キ支那ニ歸化シタル場合ト何等差異無ク從ツテ日本ヨリ見レハ之ヲ滿洲國民ト認ムルヲ待サルヲ以テ日滿間ニ從來日支間ニ見タルト同様ノ紛争ヲ繰返スコトトナルハク若シ新國家ノ國籍法カ原國籍ノ喪失ヲ以テ歸化ノ條件ト爲ス場合

ニハ朝鮮人ハ遂ニ新國家ニ歸化シ得サルコトトナル可シ
 滿洲國ノ形態及機構完備シ其ノ施政ノ實舉カリ治安改善セラレテ
 居住營業ノ保障與ヘラルルノ域ニ達セハ朝鮮人ノ滿洲移住益々加
 ハリ而シテ名實共ニ新國家ノ國民タラムトスル要望盛ナルニ至ル
 可キハ逆睹ニ難カラスコノ場合日本トシテ之ヲ制止スヘキ理由無
 キハ勿論進ムテ之ヲ獎勵セサル迄モ朝鮮人カ新事態ノ下ニ其ノ甦
 生繁榮ノ未來ヲ開拓セムトスルノ要望ニ對シテハ出來得ル限り利
 便ヲ供與スルヲ要スヘク就中從來封禁セラレタル歸化權ヲ許容シ
 滿洲國側ノ國籍法制定ト呼應シテ我國籍ヲ條件附又ハ無條件ニテ
 朝鮮ニ施行スルノ指直ヲ執ルヲ要スルコトトナルハシ
 滿洲國當局ノ間ニ於テモ最近國籍法制定ノ議起リ研究討議ヲ重ネ

タル結果草案ノ脱稿ヲ見タリト傳ヘラルルヲ以テ遠カラス其ノ公
 布ノ運ヒニ至ルヘキモ之カ過渡期間ニ於テモ朝鮮人歸化問題ノ處
 理上暫定的便法ヲ講スルノ必要ヲ感シタルモノノ如ク奉天省長ハ
 大同元年十月十日附ヲ以テ管下一般ニ對シ在滿朝鮮人ニシテ滿洲
 國國籍ヲ取得セントスル者ニ對シテハ差當リ(一)滿洲國內ニ三年以
 上居住セル者(二)滿洲國內ニ不動産ヲ有スル者(三)善良ニシテ正當職
 業ヲ有スル者(四)共產主義ヲ宣傳セサル者等ノ資格ヲ具備スルヤ否
 ヤヲ詮議ノ上辨理スヘキ旨訓令ヲ發シ居レリ

第五章 舊東北政權時代ニ於ケル朝鮮人壓迫状況

滿洲ニ於ケル朝鮮人ノ移住定著逐年増加シ侮ル可カラザル勢力ヲ扶植シツツアルヲ見ルヤ東三省官憲ハ漸ク之ニ對シ警戒ノ態度ヲ執ルニ至リ新移住者ノ流入ヲ防遏スル爲極々ナル手段ヲ講シ爲メニ朝鮮人壓迫問題ハ兩國ノ重大ナル懸案ノ一トナリ所謂滿洲問題ノ主要ナル一項ヲ形成スルニ至レリ

最近ニ於ケル滿洲官憲ノ朝鮮人壓迫ハ昭和二年帽兒山分館設置問題ニ起因スル滿洲全般ニ亘ル排日運動ノ餘波ヲ受ケ同年末俄ニ熾烈トナリタルヲ一轉機トシ殊ニ翌三年秋東三省易轍後ニ於ケル同地方官民ノ國權恢復熱ノ上騰ニ伴ヒ漸次露骨トナリタルカ其ノ間滿洲官憲ハ勳モスレハ朝鮮人ノ滿洲移住及ヒ朝鮮人カ歸化ヲ許容セラレ居ラ

サルコトヲ以テ日本ノ滿蒙侵略ノ異圖ニ出ツルモノナルカ如ク曲解シ或ハ歸化ヲ強要シテ朝鮮人ヲ悉ク其ノ權下ニ服セシメントシ或ハ故ナクシテ退去ヲ命シ又ハ犯罪ヲ口實トシテ追放處罰ヲ爲シ或ハ小作ヲ禁止スル等ノ直接手段ヲ用ヒ更ニ進ムテハ支那人地主又ハ家主ニ對シ朝鮮人ニ土地又ハ家屋ヲ讓渡質貸スルコトヲ禁止シ、朝鮮人ノ小作契約ヲ禁止又ハ制限シ、其ノ經營スル私立學校及書堂ヲ閉鎖又ハ改編シ、朝鮮人ノ移住ヲ抵制スル爲メ南方ヨリノ支那人移民ヲ獎勵スル等ノ間接手段ヲモ併用シコノ目的ノ爲ニ省政府等ノ發令セル各種ノ訓令又ハ密令殆ト枚擧ニ遑アラス之カタメ鮮農ノ被レル大少ノ壓迫事例ハ極メテ多數ニ上リ試ミニ昭和三年ヨリ同五年ニ至ル三年間ニ於ケル被壓迫事例ノ顯著ナルモノヲ擧クレハ退去強要約五

○件、不當課稅約一〇件、書堂ノ閉鎖、回收又ハ改編約六〇件、歸化強要、小作禁止等約一五件ニシテ其他微細ノ事例ニ至リテハ一々列擧ノ煩ニ堪ヘサルヘク之ト同時ニ朝鮮人カ支那軍警ノ不法又ハ不當行爲ニ依リ被レル身體財産上ノ損害亦尠カラス無力ノ朝鮮人ハ斯クノ如クニシテ一般的ニ極メテ薄倖ナル境涯ニ沈淪スルノ已ム無キニ至レリ

帝國政府ハ朝鮮人モ亦帝國臣民ナルカ故ニ大正四年日支條約ニ依ル居住往來營業自由ハ勿論商租權モ亦完全ニ之ヲ享有スルモノナリトノ建前ニテ如上支那側ノ不當壓迫ノ排除ニ努メ來リタルカ支那側ハ從來右條約ノ效力ヲ全般的ニ否認セントスルノ態度ヲ示シ殊ニ支那國籍ヲ取得セル朝鮮人ニ對シテハ日本國籍ノ離脫不能ニ頓着ナク一

切自國ノ支配權ヲ及ホサムトスルノ方策ヲ逐ヘリ斯カル狀況ノ下ニ
 於テハ單ニ條約上ノ議論ヲ上下スルコトハ却テ支那側ヲ強化セシム
 ルノ結果トナルニ適キサルニ鑑ミ機會アル毎ニ情運ヲ盡クシテ支那
 官憲ノ反省ヲ促スニ努メタリ即チ朝鮮人ノ滿洲ニ移住シ同地方ニ於
 テ社會的並ニ經濟的ニ一勢力ヲ成スニ至レルハ既ニ數十年前ノ事ニ
 屬シ當初朝鮮人ノ農耕上ノ特技ハ支那人ニ歡迎セラレ兩民族ハ經濟
 上互ニ相依リ相助ケテ自他共ニ利スルノ習俗ヲ成スニ至レルモノニ
 シテ朝鮮人カ滿洲ニ於テ築キ上ケタル既成ノ地歩ハ一朝一夕ノ業ニ
 非サルト共ニ滿洲ニ於ケル農業開發カ朝鮮人ノ勤勞ニ負フ所尠カラ
 サルノ沿革上ノ事實ヲ全然無視シテ之ヲ排斥セムトスルハ條約論ハ
 暫ラク別トスルモ人道上並ニ條理上極メテ不當ニシテ日本ノ默視シ

得サル所ナルコト並日本トシテハ在滿朝鮮人方其ノ居住營業ノ安全ヲ享受シ其ノ勤勞ニヨリ自ラ經濟上ノ安定向上ヲ計リ得ルト同時ニ支那側ノ利權ヲモ招徠シ兩者ノ間眞ニ共存共榮ノ實ヲ擧ケシムルヲ庶幾スル外他意ナキコトヲ懇説シ支那官憲ニ於テ日本方朝鮮人ヲ先驅トシテ侵略的野心ヲ逞ウシツツアルカ如キ無稽ノ臆測ニ捉ハレ不當ニ之ヲ壓迫スルコト無キヲ要望スルト共ニ日本トシテモ朝鮮人ノ居住營業上出來得ル限り支那側ニ損害其他ノ迷惑ヲ及ホササル方針ニテ常ニ朝鮮人問題ヲ公正ニ處理スルノ用意アルコトヲ申入レ支那側ノ對朝鮮人態度ノ改善ヲ期待シタルモ滿洲官憲ハ或ハ何等朝鮮人ヲ壓迫排斥スルノ意思無キコトヲ強辯シ或ハ在滿朝鮮人問題ノ根本的解決ニハ日本ニ於テ之ニ歸化ヲ許容スルノ必要アリ等顧ミテ他ヲ

云フカ如キ辯明ヲ爲シ内部ニ於テハ毫モ壓迫ノ手ヲ緩メス朝鮮人追
 放策ノ實行ト認ムルノ外ナキ實例益々多ク遂ニ昭和六年七月萬寶山
 事件ノ發生スルニ至リ我方ノ有ラユル努力ニ拘ラス滿洲官憲ノ對朝
 鮮人態度ニハ全然何等ノ改善ヲ見サリキ

第六章 滿洲事變ノ在滿朝鮮人ニ及ホシタル影響

第一節 朝鮮人遭難概況

昭和六年九月滿洲事變ノ突發スルヤ張學良下ノ東三省政權ハ忽チ倒
 壞シ精銳ヲ誇リ毎日ヲ慕トシタル東北軍モ多ク潰散シテ南北滿洲ニ
 於ケル治安ノ統制一時ニ破レ王以哲軍ヲ始メ各地敗殘兵ハ滿鐵附屬
 地ノ東西ニ分散遁竄シ之ニ呼應蜂起シタル匪賊團ト合流シテ隨所ニ
 掠奪、放火、殺傷等有ラユル兇暴ヲ擅ニシ加フルニ警備ノ弛緩ニ乘
 シ共產分子ノ躍動俄カニ加ハリ輿地方住民ノ慘害甚シク就中各地ノ
 邦人ハ多ク其ノ兇暴ノ目標トナリ殊ニ鮮農ノ蒙リタル禍厄ニ至リテ
 ハ言語ニ絶スルモノアリタリ爲メニ是等朝鮮人等ハ目前ノ秋獲ヲ放
 擲シ一家離散シ身ヲ以テ陸續滿鐵附屬地其他ノ安全地帯ニ避難スル

ニ至リ事變後約六ヶ月間即チ昭和七年三月末迄ニ其數約三萬五千ノ多數ニ上レリ（別紙第一表參照）而シテ各地朝鮮人ノ被害狀況ヲ檢スルニ事變後六ヶ月間ニ於ケル死亡者一四八名、負傷者二二六名、強姦セラレタル者四八名、被害者合計四二二名ヲ算シタリ（別紙第二表參照）而シテ是等避難民ハ孰レモ食ニ糧ナク住ムニ家ナク加フルニ冬冷俄カニ至リ困憊飢凍ノ狀正視ス可カラサルモノアリタルヲ以テ政府ハ之カ救護費ノ緊急支出ヲ行ヒ朝鮮總督府ヲ初メ内地及外地民間有志大小各團體ハ國民ノ同胞愛ニ訴ヘテ義捐ノ資ヲ募リ我領事館主トシテ救護ノ掌ニ當リ各地朝鮮人民會等ヲ警勵シ收容所ノ急設、食糧、被服、醫藥ノ補給ニ努メタリ昭和七年三月滿洲國獨立ノ前後ニ至リ滿洲各地ノ治安モ一時平靜ニ歸シタルヲ機トシ是等避難

民モ多ク原地ニ復歸ヲ見タルモ奥地ニ在リテハ又復叛軍及匪賊ノ蜂起スルアリ加フルニ高粱繁茂期ニ至リ匪賊ノ横行頓ニ猖獗ヲ加ヘ殊ニ東邊道一帶ニ在リテハ大刀會匪及唐聚五軍ノ叛亂アリ東支鐵道西部線一帶ノ地方ニ於テハ馬占山軍ノ反亂ニ引續キ兵匪各處ニ蜂起シ剩へ同年夏季松花江ノ氾濫ニ因ル北滿地方ノ大水害アリ鮮農ノ遭難被害隨處ニ發生シ再ヒ多數ノ避難民ノ救護ニ忙殺セシメラルルニ至レリ

間島地方ニ在リテハ滿洲事變直後支那官民ノ動搖及排日風潮ノ昂進ヲ示シタルモ表滿洲ニ於ケルカ如キ兵匪ノ暴動ヲ免レタル爲メ特ニ朝鮮人ノ遭難事件ヲ見スシテ經過スルヲ得タルカ昭和六年十二月王德林軍ノ叛亂以來各地ノ匪賊、共產黨之ニ呼應スルノ情アリ我領事

館警察ニ於テ地方軍警ト協力シ治安ノ維持ニ努メタル結果一時小康
 ヲ得タルモ翌七年三月末發ニ潰走セル叛軍ハ再ヒ間島ニ侵出シ來リ
 各地ノ下級軍警及保衛團員相繼テ背叛策應シ共匪亦虛ニ乘シ蜂起シ
 テ我居留民ヲ襲ヒ領事分館ヲ脅カスニ至リ吉林軍憲ノ實力ニテハ最
 早到底之ヲ鎮壓スルノ能力無キコト明カトナリタルヲ以テ帝國政府
 ハ警察的行爲トシテ四月初遂ニ朝鮮軍ヨリ一部隊ヲ越境出動セシメ
 各地居留民保護ノ任ニ當ラシムルニ至レリ
 尙滿洲學變勃發後昭和七年十月末ニ至ル迄ノ朝鮮人被害總數ハ之ヲ
 第五編第一ニ詳記セリ

別紙第一表

滿洲事變後六箇月間ニ於ケル各地朝鮮人避難者累計表

公館別

朝鮮人避難者數

奉天

六、二四三

牛莊

六三八

遼陽

八一

安東

六、〇〇一

鐵嶺

三、八九五

長春

三、三一六

吉林

四、三〇七

哈爾濱

四、一九一

463

計	滿洲里	掏鹿	新民府	海龍	鄭家屯	齊々哈爾
三五、二〇一	一三	一、九七五	七一	一、七六二	二、一〇一	六〇七

SP. 190

963

世孫錄一

滿州事變後六箇月間ニ於ケル各地朝鮮人被害者數調

公館別	被害別									
	死	亡	負傷	強姦	計	計	計	計	計	計
牛莊	一	四	二	四	四	二	一	一	一	一
遼陽	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一
海龍	一	三	五	一	一	一	一	一	一	一
奉天	一	七	九	一	一	一	一	一	一	一
哈爾濱	一	五	〇	四	一	一	一	一	一	一
齊齊哈爾	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一
長春	一	二	三	一	一	一	一	一	一	一
新民	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一
鄭屯	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
陶屯	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
鐵嶺	三	五	六	一	一	一	一	一	一	一
安東	一	五	五	一	一	一	一	一	一	一
吉林	三	〇	六	一	一	一	一	一	一	一
計	四	二	二	四	四	四	一	一	一	一

第二節 不法監禁朝鮮人ノ釋放

昭和五年ニ於ケル敦化事件竝ニ間島共匪事件ニ對スル支那側ノ取締ハ甚シク峻烈且無謀ヲ極メタル結果吉林、敦化及間島地方ニ於テ支那軍警ノ爲共匪嫌疑者トシテ檢舉收監セラレタル朝鮮人多數ニ上リタルカ右ノ中ニハ全ク是等事件ニ關係ヲ有セス何等罪過ナクシテ其ノ厄ニ遭ヘル良民モ尠カラス爾來我方ヨリ之カ引渡シ又ハ釋放方ヲ交渉シ來レルモ支那側ハ言ヲ左右ニシテ之ニ應セサリシカ偶々滿洲事變ノ突發ト共ニ我軍ノ進出ヲ見ルニ伴ヒ是等被監禁朝鮮人ハ多ク釋放セララルルニ至レリ其ノ狀況ヲ地方別ニ詳記スレハ次ノ如シ

(一) 奉天

九月十九日我軍奉天省城諸官公署ヲ占領セル結果奉天第一監獄

内ニハ共匪嫌疑者トシテ五三名ノ朝鮮人未決囚トシテ收監セラレ居ルコト判明セルヲ以テ在奉天總領事ハ關東軍側ト協議ノ上十月一日市政公所ヲ經テ總領事館警察署ニ引渡ヲ受ケ取調ノ結果呂大淵以下三四名ハ何レモ純然タル農民ニシテ何等共產黨員ト認ムヘキ證據ナキヲ以テ十月三十一日釋放シタルカ内四名ハ奉天ニ留マリ他ノ二〇名ハ民會ニ於テ一人當金八圓ヲ支給シ夫々原居住地へ歸還セシメタリ

(二) 吉林

吉林ニ入城セル我軍隊ハ同地第一監獄ニ多數ノ朝鮮人拘禁セラレ居ルヲ發見シタルヲ以テ九月二十六日吉林副司令官公署軍法處韓處長ヲ同行同監獄ニ至リ同處長ヨリ未決囚トシテ拘禁中ノ

内ニハ共産黨員等ノモトニ至三管、隨地人未將因ハシテ對照スル
 モノ二四〇名ノ釋放方ヲ命シタル上一人當リ吉林大洋一〇元宛
 ノ旅費ヲ支給シテ即時出獄セシメ間島方面ヘノ歸還者ニ對シテ
 ハ敦化縣長ヲシテ旅行證明書ヲ發給セシメ旅行ノ安全ヲ期セシ
 メタリ

(三) 敦化

我軍隊ノ敦化占據後九月三十日同地司法官吏立會ノ下ニ敦化縣
 監獄ニ拘禁中ノ朝鮮人四九名全部ヲ釋放シ一人當リ吉林大洋一
 〇元ヲ給與シ且吉林ニ於ケルト同様縣長發給ノ旅行證明書ヲ所
 持セシメ原住地ヘ歸還セシメタリ

(四) 哈爾濱

哈爾濱護路軍司令部ニハ豫テ共產黨員ノ嫌疑ヲ以テ朝鮮人三七

名ヲ拘禁中ニシテ我方ヨリ屢々釋放方交渉中ナリシ處九月十八日事變發生ヲ見ルヤ同軍司令部ハ十月七日突如是等朝鮮人ヲ全部釋放セリ

(五) 局子街

間島地方ニ於テハ吉敦方面ノ收監朝鮮人釋放ノ報傳ハリ次テ釋放セラレタル者ノ續々歸來スルニ及ヒ局子街延吉監獄ニ拘禁中ノ朝鮮人家族、親戚、友人等ハ此機會ニ於テ釋放運動ヲ起サムトシ支那側官憲ニ於テ其ノ請願ヲ容レサルニ於テハ暴舉ニ出ツルヤモ計ラレサル形勢ヲ示シ來レルヲ以テ偶々開會中ノ間瑛朝鮮人民會大會ニ集合セル各民會長等ハ之カ釋放請願運動ヲ決議シ我總領事館ニ斡旋方ヲ願出テタリ然ルニ我方トシテハ共匪取

締ニ付支那側ヲ督勵シ來レル關係上總領事館トシテ公然釋放方
 ヲ要求スルハ面白カラサルヲ以テ朝鮮人民會側ヲシテ直接請願
 運動ヲ起サシムルコトトシ其結果民會長等ハ十月十四日以後張
 籌備處長、吉警備司令、啓延吉縣長ト再三會見陳情スル所アリ
 總領事館側ニ於テモ内密ニ籌備處長ニ對シ朝鮮人間ノ運動激烈
 ニシテ此儘放置スルトキハ事態ヲ惡化セシムル虞アルニ付此際
 地方當局トシテモ輕微犯人ノ釋放、未決囚ノ至急取調等適切ナ
 ルル措置ヲ講スルノ必要アルヘキ旨勸告シタルカ地方當局モ本件
 運動ノ重大性ヲ認メ協議ヲ重ネタル結果十月十三日夜未決輕罪
 囚三四名ヲ釋放シ引續キ取調進捗ト共ニ十一月二日迄ニ輕微犯
 人及證據不充分ノ未決囚合計二二三名ヲ釋放シタリ

依テ右釋放セラレタル者ニ對シテハ局子街民會ニ於テ宿泊實費

四〇錢及旅費トシテ距離ニ應シ一圓乃至三圓ヲ支給セリ

前記釋放セラレタル朝鮮人中吉林及敦化監獄ヨリ釋放セラレタルモノハ何レモ無辜ノ良民ニシテ收監以來獄吏ノ酷遇ノ爲非常ナル苦痛ヲ蒙リ全ク生色無カリシ者ナリシヲ以テ前記日本側ノ盡力ニ對シ感激措ク所ヲ知ラス何レモ皇軍ノ威力ヲ讚へ今後生業ニ復シタル上ハ日本臣民トシテ報恩ノ計ヲ爲スヘシト語り各々原任地ニ復歸セルカ支那官憲ノ不法、虐待、蠻行等ニ對シテハ悉ク憤慨シ何レモ支那カ法治國トシテ前途遼遠ナルコトヲ述へ居レリ一方彼等ノ拘禁ハ皆韓族總聯合會所屬ノ不良朝鮮人ノ手引ニ依ルモノナリトテ今後同會ノ撲滅ヲ期スヘキ旨稱シ居タリ

一方吉林省官憲ハ前記朝鮮人釋放カ純然タル自發的措置ニ非サリシ
 爲メ自ラ之ヲ快シトセサルニ色アルモノノ如ク吉林省政府ハ十月十
 八日附ヲ以テ管下官憲ニ對シ釋放朝鮮人中ニハ共匪ノ頭目トモ目ス
 ヘキ重罪犯人アリ釋放ト共ニ既ニ不穩行動ヲ劃策シツツアルモノア
 リ又一方親日者ハ日本軍ノ措置ニ感動シ今後日本ノ爲獻身的ニ或ル
 種ノ行動ニ出テムトスル者アルヘキヲ以テ嚴重警戒ニ努ムヘキ旨ノ
 密令ヲ發シ又同十九日延吉警備司令モ管下一般ニ對シ吉敦地方ニ於
 テ釋放セラレタル朝鮮人ハ前非ヲ改メ各自其ノ生業ニ安スヘク萬一
 再ヒ共匪ニ投シ不穩ノ行動アルニ於テハ嚴罰ニ處スヘキ旨布告スル
 所アリタリ

第三節 滿洲事變ノ新事態ニ對スル朝鮮人ノ各種運動

滿洲事變勃發以來一般朝鮮人ハ事變ノ結果滿洲ニ新事態ノ現出ヲ見ルヘク從テ從來ノ如ク暴戾ナル支那官民ノ壓迫モ自然其ノ跡ヲ絶テ租地・居住・農耕等モ自由トナリ日本官憲ノ保護ノ下ニ極メテ安全ニ生業ニ從事シ得ルニ至ルヘキヲ確信シ時局ノ安定ヲ待望スルノ念熾烈ヲ加ヘタルカ此間各地ニ於ケル朝鮮人民會等中心トナリ事變ヲ機トシテ在滿朝鮮人ノ地歩確立ヲ期シ寄々會議ヲ催シ請願運動ヲ爲セルモノ尠カラズ以下其ノ主ナルモノヲ摘記スヘシ

(一) 全滿朝鮮人民會聯合會

奉天日本居留民會(朝鮮人加盟)ハ時局ニ關シ善處セムカ爲全滿朝鮮人民會聯合會ノ開催ヲ提議シ昭和六年十月二十日及二十一日

ノ二日間ニ亘リ奉天、安東、撫順、海龍、鐵嶺、掬鹿、長春、四平街、鞍山、營口、通化、鄭家屯、吉林、哈爾濱、一面坡、齊齊哈爾ノ各地朝鮮人民會代表奉天ニ集合會議ノ結果在滿朝鮮人保護救濟並將來ノ發展ニ關スル請願書ナルモノヲ決シ各方面ニ傳送シタルカ其ノ主要項目次ノ如シ

一 此際政府ハ奧地朝鮮人現地保護ノ爲メ全滿ニ亘リ朝鮮人ノ集團スル主要地點ニ我カ警察官ヲ駐在セシメラレ度キコト

二 政府ハ此際奧地朝鮮人避難民ニ對シ無賃輸送ノ便ヲ與ヘ生活ノ途ナキ者ニ對シテハ時局安定スル迄ハ一定ノ期間國費ヲ以テ救助ノ方法ヲ講スルト共ニ奧地ノ危險地帯ニ居住スル者ハ此際一定ノ安全地帯ニ引揚ケヲ命シテ同様救助ヲ爲シ且朝鮮人ノ被

害ハ詳細之ヲ調査シ後日支那政府ヲシテ損害賠償ヲ爲サンメラ
レタキコト

三 政府ハ此際至急土地商租ニ關スル條約勵行ノ方法ヲ講セラレ
タキコト之カ爲メニハ皇軍ノ威力ノ加ハリタル好機ヲ逸セス政
府ニ於テ速カニ中外ニ對シ本條約勵行ニ關スル適切ナル聲明書
ヲ宣布シ帝國臣民ヲシテ更メテ率由スルトコロヲ知ラシメ細則
協定ノ如キ末節ニ拘泥セス支那側ノ會テ發令セル「商租須知」
ヲ撤廢セシメ從來支那人間ニ於テ行ハレタル舊慣ニ依リ質權設
定ノ方法ヲ巧妙ニ運用スルノ方針ヲ執ラレタキコト

四 在滿朝鮮人生活ノ安定及其ノ發展策トシテ政府ハ適當ナル方
法ニ依リ（滿鐵ヨリ政府ヘノ上納金ノ一部ヲ割キ毎年滿洲ノ農

- 耕地購入費及一般農耕地資金ニ融通シ年賦償還ノ方法ニ依リ自作農ヲ創定セシムルコトトスルヲ最モ適當ト認ムル農業資金融通ノ方法ヲ講セラレタキコト
- 五 支那地方官憲ノ濫發シタル朝鮮人ニ對スル暴令及惡稅ヲ撤廢セシメラレタキコト
- 六 三矢條約ヲ撤廢セラレタキコト
- 七 朝鮮人ノ居住ハ之ヲ集團的ニ統制セラレタキコト
- 八 奥地居住朝鮮人ニ自衛團ヲ組織セシメ之ニ適切ナル自衛方法ヲ講セシメラレタキコト
- 九 必要箇所ニ農業倉庫ヲ建設シ以テ新穀出廻期ニ於ケル投賣ヲ防止シ且朝鮮總督府ニ於テ滿洲米朝鮮輸入稅撤廢方ヲ特ニ考慮

セラレタキコト

一〇 貧農救済ノ目的ヲ以テ各地ニ無料收容所ヲ常設セラレタキコト

一一 朝鮮人ニ對スル教育及醫療機關ヲ擴張セラレタキコト

(二) 全滿朝鮮人大會

金三民ノ主宰セル新大陸社主催ノ下ニ昭和六年十月十七、十八兩日奉天ニ於テ全滿朝鮮人大會開催セラレタルカ南北滿洲各地ヨリノ會衆約三五〇名ニ達シ席上時局ニ依ル避難朝鮮人救済慰問及保護策ニ付討議ノ末執行委員五〇名ヲ選舉シ常設機關トシテ滿洲遭難同胞對策講究會ヲ組織シ爾後主トシテ避難朝鮮人ニ對スル保護策ノ講究及慰問、宣傳、救済等ノ實際運動ニ當ルコト

ヲ決議シ宣言書ヲ發表シ引續キ遭難朝鮮人ノ追悼會ヲ催シタリ
 (三) 鐵嶺ニ於ケル朝鮮人ノ請願運動

鐵嶺朝鮮人會ニ於テハ同年十月十四日同會顧問張宇根主備トナ
 リテ同地ノ主ナル在留朝鮮人會合ノ上在滿朝鮮人救濟ニ付討議
 ノ結果避難者ニ對スル差當リノ救護、輿地方面要所ニ警察官出
 張所設置方ノ請願及避難民ヲ輿地支那村長ニ寄託歸還セシムヘ
 キ件等ヲ決議セルカ尙張宇根ハ輿地朝鮮人保護、中國官憲ノ壓
 迫防止ノ爲三矢協定ノ撤廢及不良朝鮮人取締ノ爲朝鮮人巡捕五
 ○名採用配置方ニ關スル請願書ヲ各要路ヘ送致セリ

(四) 間輝朝鮮人民會聯合會

間島十八民會長ハ同年十月十日ヨリ三日間龍井村朝鮮人民會ニ

於テ聯合會議ヲ開催シ

一治安機關擴張（警察官ノ増置）

二統一的産業機關組織（民生團ノ組織）（五）参照

三支那監獄ニ拘禁中ノ朝鮮人釋放

等ヲ決議シ夫々實際運動ニ移ルコトトシ散會セリ

（五）民生團ノ組織

滿洲事變勃發直後京城甲子俱樂部理事曹秉相及毎日申報副社長朴錫胤ハ間島ニ赴キ同地有力朝鮮人等ト屢々會合シ間島地方在住朝鮮人ノ生活ノ安定向上ト福利増進ヲ計ル爲産業振興ヲ目的トスル統一團體ノ設置ヲ企劃シ之ヲ前記間瑯十八民會代表者等ニモ計リ其贊同ヲ得タルカ更ニ延邊地方民族派及共產系朝鮮人

ヲ合流セムトシ同年十一月十一日ヨリ發起人會ヲ開キ協議スル所
 アリ結局民族派ハ其ノ主張タル綜合的民衆機關トシテ常設ノ團
 体ヲ作ラムトスルニ反シ共產派ハ之ヲ無産大衆機關トシテ當面
 ノ小作問題解決ヲ主トスル臨時施設ノ団体タラシムトスル點
 ニ於テ意見ノ一致ヲ見ス共產系朝鮮人ハ本計畫ヨリ脫退シ結局
 所謂親日派及民族派（全成錫等）ノ意見一致シ發起人ヨリ在間
 島總領事ニ新團體設置ノ許可ヲ願出タルカ同總領事ニ於テモ在
 間島各派朝鮮人ノ結合ニ依リ思想ノ統一ヲ計ルト共ニ合法的且
 ツ穩健ナル手段ヲ以テ一般朝鮮人ノ生活安定、産業振興ヲ策ス
 ルニ於テハ指導ノ如何ニ依リ彼等ノ教化誘導上相當效果ヲ擧ケ
 得ヘシトノ見解ヲ以テ十二月二十四日民生團設立ノ許可ヲ與ヘ

タリ然レトモ其後關係者ノ努力足ラス朴錫胤等ノ退去ト共ニ同
運動モ漸次立消ノ状態ニ陥レリ

(六) 滿蒙在任同胞後援會

在京城後備陸軍中將趙性根等主トシテ朝鮮軍人出身者ヲ以テ組
織シタル滿蒙在任同胞後援會ハ同年十月二十七日京城ニ於テ盛
大ナル發會式ヲ舉ケ滿蒙ニ對スル帝國ノ國策ニ順應シ在任朝鮮
人ヲ後援シテ其ノ安定向上ヲ圖ルヲ目的トシ昭和七年一月趙中
將自ラ東上シテ要路ヲ歴訪シ

一 帝國臣民タル朝鮮民族ノ滿蒙ニ於ケル地位ハ內鮮人同一ニ
シテ此關係ハ絕對ニ動カス可カラサルコト

二 一年以上滿蒙ニ居住スル朝鮮人ニ對シテハ公民權ヲ附與ス

ルコト

三 公民権取得ニ伴ヒ納税ノ義務ヲ生スルハ勿論ナルモ其ノ負擔率ハ新國家ノ臣民ト同一タルコト

四 朝鮮同胞發展上有利且必要ナル權益例ヘハ居住營業、動産、不動産等ノ相續遺贈等ノ權利ノ確認ヲ主張セラレタキコト等ノ趣旨ヲ陳情スル所アリタリ

(ハ) 滿洲研究團體聯合會

安東、奉天、吉林、哈爾濱、一而坡及長春ノ有識朝鮮人等ハ各居住地ニ於テ滿洲國ノ成立ニ伴ヒ在滿朝鮮人ノ地位向上ヲ圖ラムトシ奉天ニ在リテハ昭和七年三月六日滿洲研究會ナルモノヲ組織シ其ノ他ノ地方ニ在リテモ夫々類似ノ會合ヲ行ヒ來リシカ

六月ニ入り是等各團體ノ聯合會ヲ開催スルコトトナリ同月十五日新京ニ於テ各地友誼團體懇談會ナル會名ノ下ニ會合シ經濟、政治、教育、教化、地方特殊問題ニ關シテ論議スル所アリ翌十六日愈聯合會ヲ組織スルノ議ヲ決シ名稱ヲ滿洲研究團體聯合會トシ事務所ヲ當分奉天ニ置キ各團體ヨリ代表委員ヲ選出シ更ニ委員中ヨリ四名ノ常務委員ヲ互選シ其ノ事業トシテ日本ノ對滿政策ヲ積極的ニ援助スル目的ノ下ニ大体次ノ各項ノ實行ヲ常務委員ニ附託セリ

- 一 集團農場選定及其ノ施設ニ付後援方ヲ政府當局ニ陳情スルコト
- 二 聯合會ノ機關紙ヲ發行スルコト

- 三 聯合會維持費ノ財源タルヘキ生産事業ヲ經營スルコト
- 四 研究生養成所ヲ設置スルコト
- 五 附屬職業相談所ヲ設置スルコト
- 六 簡易講座ヲ施設スルコト
- 七 企業材料ト資本家及技術家トノ連絡方ヲ斡旋スルコト
- 八 聯合會直營農場ヲ設置スルコト
- 九 避難民救済方法ヲ考究スルコト
- 十 各地ニ調査員ヲ派遣スルコト
- 十一 日支語講習ヲ普及セシムルコト

第四節 滿洲事變後ニ於ケル在滿一般朝鮮人ノ傾向

在滿一般朝鮮人ハ滿洲事變以來從來支那官民ヨリ受ケタル極端ナル
 壓迫ノ反動トシテ俄然滿洲官民ニ對シ侮蔑的態度ニ出テ甚シキニ至
 リテハ皇軍ノ威ヲ藉リテ過去ノ壓迫ニ對スル報復ヲ爲サムトスルカ
 如キ不心得ノ徒輩モアリ隨所ニ忌ムヘキ事端ヲ醸サムトスル傾向ヲ
 示シ來レルヲ以テ出先帝國官憲ニ於テハ斯カル面白カラサル風潮ヲ
 矯正シ之カ善導誘掖ノ方法ヲ講シ穩健着實ナル向上ヲ計ラムコトヲ
 期シツツアリ

然レトモ他面間島地方居住者ノ如キ從來ヨリ我官憲ノ眞意ヲ理解ス
 ル朝鮮人等ハ匪賊ノ迫害ヲ除去スル爲自ラ進ムテ日滿當局諒解ノ下
 ニ各地ニ自衛團ヲ組織シ我出先軍警ノ指導訓練ヲ受ケ敢然トシテ統

火ヲ冒シ幾多ノ實績ヲ擧ケテ地方治安ノ維持上多大ノ貢獻ヲ爲シツ
 ツアルハ頗ル注目ニ値スルモノト云フヘク又從來支那側ノ排日行動
 ニ對スル帝國ノ隱忍自重ヲ以テ屈辱爲ス無シト爲シ動モスレハ帝國
 ヨリ離叛セントスル傾向アリタル在滿朝鮮人カ事變以來各地期セス
 シテ帝國ノ國策ヲ謳歌シテ國民意識ヲ明瞭ニシ其ノ國際聯盟支那調
 査委員一行ニ對スル陳請ノ如キニ對シテモ進ムテ我官民ト步調ヲ一
 ニスルノ態度ヲ執ルニ至リシカ如キハ併合以來未タ嘗テ見サル現象
 ニシテ斯カル事態ハ在滿朝鮮人ノ善導上絶好ノ機會ヲ與フルモノニ
 シテ帝國政府トシテハ這箇ノ情勢ヲ利用シ此際在滿朝鮮人ノ生活安
 定地位向上ノ爲出來得ル限り助長施設ヲ爲スノ要アリト認メラル
 又彼上各種ノ團体的運動ハ新事態ニ對スル一般朝鮮人ノ覺醒ノ表現

ト見ルヘキ點ニ於テ歡迎スヘシト雖茲ニ注意スヘキハ朝鮮人ノ特質
 上此種團體運動ハ一般ニ持續性ニ乏シク其ノ結末ヲ見スシテ挫折シ
 易キコトナリ殊ニ是等運動中ニハ時局ヲ利用シ當局ノ物的補助ヲ目
 的トスルカ如キ不純ナル動機ニ發足セルモノナキニアラサルヘク且
 由來此種政治的運動ニ特殊ノ興味ヲ有スル朝鮮人ノ癖トシテ其ノ計
 劃内容多クハ抽象的、形式的ニ流レ之ヲ歸納的ニ見ルトキハ結局何
 等ノ意義ヲ留メサルモノ甚々多シ此點ハ將來朝鮮人ノ發展助長上爲
 政者トシテ最モ留意セサル可ラサル所ナリト認メラル

第五節 在滿朝鮮人ニ對スル滿洲國側態度

滿洲專變後舊軍閥ノ崩壞ニ依リ從來久シキニ濶リ支那官憲ノ壓迫下ニ呻吟セル鮮農モ漸ク公正ナル施政下ニ其ノ生業ニ安ンスルヲ得ルノ域ニ向ヒタルカ尙僻遠ノ地方ニ在リテハ舊習ヲ脱セスシテ苛斂誅求ヲ止メス事態ノ推移ニ迂遠ナル地主亦國土盜賣令等ヲ楮ニ耕作地貸與ヲ躊躇スル向モアリ之ニ對シテハ我出先領事ニ於テ地方官憲ノ注意ヲ喚起シツツアリタルカ新政權ニ於テモ管下一般ニ對シ在留朝鮮人ノ取扱振ニ關スル訓令ヲ發スル必要ヲ認メ先ツ奉天省政府ハ東邊道各縣ニ對シ昭和七年二月二十三日附ヲ以テ次ノ趣旨ノ訓令ヲ發シタリ

奉天省ハ朝鮮ニ接壤シ交通便利ナルニ加フルニ歷史上諸種ノ關係

甚タ重要ニシテ情意モ固ヨリ密切ナルカ故ニ朝鮮人ノ往來頻繁ニシテ恰モ隣家ニ同シク近來本省ニ移住シ農工商業ヲ營ム者日ニ増加ヲ見ツツアリ殊ニ東邊各縣最モ著シキモノナル處朝鮮人ノ生命財産ハ國際慣例ニ依リ章程ニ照シテ一体ニ保護シ些モ別視スルヲ得サルモノナリ今ヤ胡匪蜂起シ到ル處ニ於テ騷擾シツツアル際ニ當リ朝鮮人ニ對シテハ特ニ注意シ隨時保護シ以テ擾害ヲ免レシムヘク從來ノ不平等待遇或ハ特別辦法ニシテ朝鮮人ニ不利ナルモノハ總テ免除シ以テ善隣親仁ノ意ヲ示スヲ要ス依テ所屬ニ轉令シテ一体ニ遵照セシムヘシ

又奉天省長ハ同月廿九日各縣ニ對シ更ニ次ノ趣旨ノ訓令ヲ發セリ

前遼寧省政府ニ於テハ支那人ト朝鮮人トノ共同耕作ヲ禁シ朝鮮人

ヲ雇傭シテ耕作セシムルコトトセル結果却テ朝鮮人ノ反抗ヲ買ヒ
衝突ヲ起シ訴訟事件ヲ見ルニ至レリ今ヤ新政施行サレ東省ニ於テ
ハ種族ノ別ナク一律ニ一視同仁ノコトトナリタルニ付韓僑ノ本省
ニ在住スルモノハ農工ヲ論セス蔑視壓迫スルコトアルヲ得ス水田
ノ水利稅ハ之ヲ半減シ改メテ一畝ニ付五角ヲ徵收スルコトト致シ
府旨實業廳ヨリ通牒アリタルニ付右様取計方各縣ニ令ス

依テ前記省長訓令ニ基キ東邊道谷縣ハ一樣ニ其管下地方區官等ニ同
意旨ノ命令ヲ布達セリ

一方吉林省ニ於テモ昭和七年春耕季ニ至リ事變ニ依リ安全地ニ避難
セル鮮農ノ原地復歸ニ際シ舊地主等カ故意ニ耕地ノ貸與ヲ拒ム等ノ
虞アリタルニ付在吉林總領事及在長春領事ハ二月下旬吉林交渉員及

長春市長ニ對シ夫々公文ヲ以テ各管下官憲ニ復歸鮮農ヲ排斥セサルハ勿論彼等ニ對シ充分保護ヲ加フル様訓令方申入レタル處兩者共之ヲ承諾セル旨ノ回答アリタルカ其結果各地ニ於ケル避難鮮農ノ復歸ニ際シテ何等地主佃トノ紛糾ヲ生セス播種スルヲ得タルカ爾來官憲側ノ保護モ比較的良ク行ハレ魯軍國時代ニ比シ鮮農ニ對スル態度全ク一變セリ

右ハ昭和七年三月滿洲國成立直前ノ狀況ナルカ同國ノ建國ハ所謂五族共和ヲ理想トシ領内ノ住民ハ種族宗教ノ別無ク一樣ニ公平待遇ヲ與フルヲ以テ政治ノ大本ト爲シ居ルニ鑑ミ前記各省ノ新方針カ滿洲國成立後モ其ノ對朝鮮ハ政策ノ基調ヲ成シ居ルコト固ヨリ疑ヲ容レサル所ナリ

第六節 三矢協定ノ廢止

一 三矢協定成立ノ理由及其ノ成績

大正八年三月朝鮮ニ於ケル獨立騒擾事件勃發以來不逞ノ徒滿洲ニ逃レテ不軌ヲ企テ湯綠江ヲ越ヘテ鮮内ニ武力侵入ヲ敢テシ没人放火涼傘ヲ擅ニスルニ至リ爲ニ鮮内ノ治安ニ影響スル所甚大ナルモノアリタルノミナラス是等不逞鮮人防衛取締ノ爲鮮内ノ警察官力屢々越境シテ支那側トノ間ニ問題ヲ惹起スル等對内的ニモ對外的ニモ憂フヘキ傾向ヲ呈シタル爲何等カノ方法ヲ以テ彼我取締當局ノ協調連絡ヲ圖ルノ必要ヲ認メ遂ニ大正十四年六月當時ノ朝鮮總督府警務局長三矢宮松ハ滿洲視察ノ途次奉天ニ於テ船津總領事ト議シ奉天全省警務處長于珍トノ間ニ取締並犯人引渡ニ關スル一種

ノ地方的取極ヲ協定シ（別紙第一號）次テ同年七月八日右取極ノ施行運用ニ關シ同府警務局警務課長國友尙謙ハ三矢警務局長ノ代理トシテ于警務處長トノ間ニ細目ヲ協定セリ（別紙第二號）世ニ所謂三矢協定ト稱スルモノ即チ之ナリ

本協定ハ八項ヨリ同細則ハ十二項ヨリ成リ協定ニ於テ(1)支那側ハ在留朝鮮人ニ對シ自國人ニ適用スル清郷章程ニ依リ取締ヲ行フヘキコト(2)武器携帯ノ朝鮮人カ鮮内ニ入境スルコトヲ禁シ違反者ハ支那側ニ於テ逮捕ノ上朝鮮側ニ引渡スコト(3)不逞團體ノ解散及武器沒收(4)朝鮮側ノ指名スル不逞首魁ヲ逮捕シテ引渡スコト(5)取締實況ノ相互通報(6)相互ニ竄ニ越境セサルコト等ヲ協定シ細則ニ於テ(1)本協定施行ノ地域ヲ東邊道一圓トシ(2)居住朝鮮人ノ良否ヲ甄

洲スル爲居住證明書ヲ發給シ(3)定期戸口調査ノ實施(4)轉居ノ場合
 ニ於ケル移轉證明書發給(5)不逞者引渡ノ手續(6)不良團體ノ解散(7)
 相互連絡ノ方法(8)從來及將來ニ於ケル取締行爲ニ起因スル懸案ヲ
 双方誠意ヲ以テ解決スヘキコト等ヲ協定シタルモノニシテ施行區
 域ハ奉天省東邊道三〇縣(安東、興京、通化、鳳城、寬甸、桓仁
 瀋江、輯安、長白、安圖、撫松、撫順、本溪、海龍、輝南、柳河
 金、復、岫巖、莊河)即當時在安東東邊道尹ノ管下一圓ニ限ラレ
 タリ

本協定實施ノ結果不逞武力團ノ朝鮮侵入件數激減ヲ示シ協定前ノ
 大正十三年ニ於ケル侵入五六〇件ニ上リタルモノ翌十四年二七〇
 件、十五年六九件、昭和二年一六件ニ減シ更ニ昭和五年ニ至リテ

ハ僅ニ三件ニ過キサルニ至レリ然レトモ右激減ノ原因ハ必スシモ支那側カ本協定ヲ忠實ニ實施シタル結果トノミ見ル可カラサル内情アリ即チ當初武力ヲ以テ朝鮮ノ統治ヲ覆サント試ミタル不逞團モ漸次其ノ可能性無キヲ自覺シ加フルニ民族主義派ノ凋落、共產主義派ノ擡頭、武力工作カ思想運動ニ轉換シタルコト等不逞團側ニ於ケル幾多錯綜セル原因ノ存在亦見遁エ可カラサルモノアリ又當時支那側カ不逞鮮人ノ取締ニ關シ我方ノ要求ヲ容レタル動機ハ何等日本側ニ對シテ忠實ナラムトスルニ出テタルニ非スシテ之ニ依テ從來朝鮮警察官カ取締上已ムヲ得スシテ支那領ニ越境シ來リ屢々領土主權問題ヲ惹起シツツアリタル折柄東北官憲ノ面子保持ノ必要ヨリ日本警察越境ノ防止策トシテ之ヲ利用スルコトヲ目的

トシタルモノト見ル可キモノナルヲ以テ協定ノ實施當初コソ稍眞面目ニ取締ヲ行ヒタルコトアルモ逮捕者ノ引渡、情報ノ交換ノ如キハ殆ント約束ヲ實行シタルコト無ク却テ當該官憲カ收賄ニ依リ竄ニ犯人ヲ釋放シ其ノ買收スル所ト爲ル等弊害百出シタルノミナラス漸次本協定ヲ逆用シテ之ヲ一般居住朝鮮人ニ對スル壓迫、搾取ノ具ニ供シ剩ヘ本協定ノ施行範圍ヲ越ヘテ之ヲ奉天全省ニ及ホサムトスルニ至リ在滿朝鮮人ハ一設ニ本協定ニ對シテ怨嗟ノ聲ヲ放チ之カ廢止ヲ請願スル者頻出セリ

ニ 三 矢協定ノ廢止

本協定ハ云フ迄モナク日支間警察取締ニ關スル地方的暫定辦法ニシテ固ヨリ條約ニ非ス加フルニ彼上ノ如キ弊害百出シ功罪相償ハ

ナルコト明ナルニ至リタルヲ以テ在奉天森島總領事代理ハ昭和六年十二月之カ廢止ヲ稟請シ朝鮮總督府亦之ニ同意シテ昭和七年二月係官ヲ奉天ニ派シ滿洲國側ト協定廢止ニ關スル折衝ヲ重ネタリシカ當時滿洲國側ニ在リテハ建國勿々ノコトトテ内部的業務ニ忙殺セラレ且事變後要路ノ大移動アリテ舊時ノ關係ヲ知ルモノナキ等ノ事情ノ爲メ一時停頓ノ狀態ニ陥リタリシモ其後滿洲國側ノ準備成ルニ及ヒテ十二月十二日在奉天森島總領事ハ朝鮮總督府事務官ノ資格ニ於テ同府警務局長ヲ代理シ奉天省警務廳長トノ間ニ本協定廢止ニ關スル交換公文ニ署名捺印ヲ了シ（別紙第三號）茲ニ三矢協定ハ實施以來僅カニ七年半ニテ終焉ヲ告ケタリ

別紙第一號

不逞鮮人ノ取締方ニ關スル双方ノ協定

(双方協定取締韓人辦法)

一 中國在留ノ朝鮮人ハ中國官憲ニ於テ清鄉章程ニ依リ戸口ヲ嚴査シ

冊ヲ編成シテ互ニ保證シ連帶責任ヲ負擔セシム

二 中國官憲ハ各縣ニ通令シ在留鮮人ノ武器ヲ携帯シ朝鮮ニ侵入スル

コトヲ嚴禁ス犯ス者ハ之ヲ逮捕シ朝鮮官憲ニ引渡スヘシ

三 不逞鮮人團體ヲ解散シ所有ノ銃器ヲ搜索シテ之ヲ沒收シ武裝ヲ解

除スヘシ

四 朝鮮人所有ノ銃器火藥(但シ農民ノ所有スル鳥獸驅除用ノ銃器ヲ

除ク)ハ當該官署ニ於テ隨時嚴重搜索シ之ヲ沒收ス

五 朝鮮官憲ノ指名スル不逞團首領ヲ逮捕シ朝鮮官憲ニ引渡スヘシ

六 中日兩國官憲ハ不逞鮮人及婦ノ實況ヲ相互通報スヘシ
 七 中日兩警察ハ境ニ越境スルコトヲ得ス若シ必要アルトキハ相互通
 報シテ代テ處理方ヲ請求スヘシ
 八 從前ノ懸案ハ双方誠意ヲ以テ期ヲ限リ解決スヘシ

以上

中華民國十四年六月十一日

大正十四年六月十一日

於奉天交涉署

朝鮮總督府警務局長 三 矢 宮 松 印

奉天全省警務局長 于 珍 印

別紙第三號

不逞鮮人取締施行細則

- 一 中國奉天省東邊道管轄區域内ニ居住スル鮮人ハ中國官府ヨリ清鄉章程ニ依テ查明シ確實ニ善良ト認メラルル者ニ對シ先ツ居住證明書ヲ下附シ然ル後牌ヲ編成シテ互ニ保證セシメ以テ監査ニ便ナラシム（居住證明書ハ別ニ之ヲ定ム）
- 二 中國奉天省東邊道管轄區域内ニ居住スル鮮人ノ人口ハ最初ノ調査ヲ完了シタル後毎月隨時ニ調査シ若シ移動アリタル場合ハ別ニ牌保ヲ編成スル外其ノ毎年ノ總調査ハ二回ヲ限度トシテ春秋二季ニ之ヲ行フモノトス
- 三 中國奉天省東邊道管轄區域内ニ居住スル鮮人ハ他境ニ移轉セムトスル場合ハ其ノ五日前ニ當該管轄管轄所ニ出頭シ居住證明ヲ返還

スルト共ニ移轉證明書ヲ受領シ以テ考査ニ便ナラシム（移轉證明書ハ別ニ之ヲ定ム）

四 協定辦法ニ依リ將來双方カ鮮人取締上ノ請求、通知、逮捕、引渡等ノ事項ハ迅速簡易ヲ旨トシ地方官憲ハ警察官吏ヲ指揮シテ之ヲ行フモノトス

五 中國奉天省東邊沿江各縣カ鮮岸ニ侵入セムトスル不逞鮮人ヲ（勿論武器携帶者モ含ム）捜査發見シタル場合之ヲ逮捕審問シタル後中國地方官憲ハ協定辦法ニ依リ鮮岸沿江道知事ニ引渡シ接受ニ便ナラシムル爲メ對岸最寄日本警察署ニ引渡スモノトス

六 中國奉天省ニ居住スル鮮人ハ其ノ名目ノ如何ヲ問ハス集會結社ヲ爲ス場合ハ凡ソ中日兩國ノ地方治安ヲ妨害スルモノ及ヒ其ノ他不

1000

SP. 190

正當ナル企畫ト認メラルルモノハ一律ニ之ヲ嚴禁ス從前成立セル
 モノモ亦之ヲ解散セシメ以テ流弊ヲ防キ取締ニ便ナラシム其ノ公
 然機關ヲ設立シ武器ヲ所持シ家ヲ組ンテ遊行スルモノハ極力之ヲ
 剿滅シテ其ノ根絶ヲ期ス之ヲ逮捕シタル場合ハ則チ第五項ノ規定
 ニ依リ之ヲ引渡スモノトス

セ 朝鮮官憲カ指名シテ逮捕方ヲ依頼シ來リタル不逞鮮人ハ中國官憲
 ニ於テ討伐逮捕シ審問後必ス第五項ノ規定ニ依リテ之ヲ引渡ス但
 シ其ノ該當者非ラサル場合ハ書面ヲ以テ通知シ其ノ誤解ヲ解クモ
 ノトス

ハ 協定第七項ノ請求ハ双方通知ヲ接受シタル後直ニ適當ノ措置ヲ取
 リ相互ニ何分ノ結果ヲ通知スルモノトス

九 双方カ臨時ニ口頭ヲ以テ通知スル場合ハ武装者二人以内ニ限り相互渡江シテ通告スルト共ニ通知表（通知表ハ別ニ之ヲ定ム）ヲ提示スルモノトス

書面通知ノ方法ハ中國警察所長及日本警察署長ヲ以テ最低階級トス

十 本協定ノ精神ヲ貫徹シ且ツ嚴密ニ勵行スル見地ヨリ双方監督官憲及ヒ下級警備機關ノ聯絡及ヒ意思ノ疎通ヲ圖ル爲メ誠意ヲ以テ通報ヲ交換シ其ノ進行ヲ協助スルモノトス

十一 東邊道ニ於ケル双方従前ノ懸案ハ本細則調印ノ日ヨリ五個月以内ニ地方官憲ニ於テ互ニ誠意ヲ以テ公平解決シ又將來再ヒ交渉事件發生シタル場合モ亦須ク地方官憲ニ於テ公平ニ交渉解決スルモ

ノトス

十三 本細則ハ相互調印ノ目ヨリ及方公文書ヲ以テ公布施行スルモノ
トス

朝鮮總督府警務局長三矢宮松代

同 警務課長 國友 尙 謙

中華民國奉天省全省

警務處處長 于 珍

大正十四年七月八日

中華民國十四年七月八日 於奉天警務處立

1003

SP. 190

年
月
日

通 知 表

				受 信 機 關	集 國 韓	匪 狀 況
				發 信 機 關	鮮 籍 身 柄	年 籍 身 柄
					韓 所 在 地	匪 所 在 地
						事
						由

(用 式)

奉天省行政區畫

三道五十七縣六旗

遼瀋道 二十二縣

縣名略

洮昌道 十五縣

東邊道 二十縣

安東、興京、通化、鳳城、寬甸、桓仁、臨江、輯安、
 長白、安圖、撫松、撫順、本溪、海龍、輝南、柳河、
 金、復、岫巖、莊河

我方
管轄

二	本無 溪順	奉 天 安
八	臨寬 江甸 、 長緝 白安 、 桓 仁	東 通 化 海 龍 牛 莊 間
三	柳海 河龍 、 復	島 關 東 州
三	安撫 圖松 、 金	計
一		
二		
一		
二〇		

備考

別紙第三號

中華民國十四年六月十一日 朝鮮總督府警務局長三矢宮松ト奉天全省警
大正十四年六月十一日 朝鮮總督府警務局長三矢宮松ト奉天全省警
務廳長于珍トノ間ニ協定シタル「不逞鮮人ノ取締方ニ關シ双方ノ協定」
及「不逞鮮人取締施行細則」ハ之ヲ廢止ス

昭和七年十二月十二日

大同元年十二月十二日

朝鮮總督府警務局長 池田 清

代理朝鮮總督府事務官 森 島 守 人

奉天省公署警務廳長 三 谷 清

1007

SP. 190

第七章 在滿朝鮮人ノ不逞行動及取締狀況

一 南滿方面ニ於ケル狀況

朝鮮獨立ヲ目的トシ過去數年ニ亘リテ滿洲ニ於テ不逞ヲ働キ居タル新民府、參議府及正義府ノ三團體ハ昭和三年秋大同團結ノ目的ヲ以テ吉林ニ於テ三府統一會議ヲ開催シタルカ其結果從來ヨリ右三團體ノ間ニ存シタル相互間ノ確執並各派内ニ於ケル内争ノ氣運ヲ却テ激成スルニ至レリ然ルニ於テハ同年十月ヲ期シ我出先官憲ニ於テ同方面ヲ地盤トスル參議府ノ大檢舉ヲ實行シタル結果參議府ハ遂ニ潰滅シ其一部ハ正義府ト相合シ興京（現在ノ新賓）ヲ根據地トシテ國民府ナル新ナル不逞團ヲ組織シ財政部、司法部、宣傳部等種々ノ内部的機關ヲ設ケ宛然一個ノ獨立政府トシテ地方

鮮民ニ臨ミ同時ニ革命軍ナル別働隊ヲ設ケ國民府ノ命令ニ從ハサル善良ナル鮮農ニ對シ凡有暴行殺戮等ヲ行ヒ自己ノ存立ノ爲搾取ヲ施ニセル結果數年來同方面ニ於ケル一般鮮農ノ生活ニ多大ノ脅威ヲ與ヘ來レリ右ノ事情ニ鑑ミ在奉天總領事館ニ於テハ朝鮮總督府側ト協力シ又通化海龍ノ兩分館トモ密接ナル聯絡ヲ保持シ最近二、三年ニ亘リ國民府掃蕩ノ爲ニ種々腐心シ數回之カ討伐ヲ實行シタルカ地勢ノ遠隔不便ナルニ加ヘ是等不逞團カ地方下級官憲及地方民ト遭謀シツツアリタル關係上容易ニ濠洲ノ如キ效果ヲ舉グルニ至ラス其後昭和五年朝鮮共產黨カ中國共產黨ニ加盟ノ結果共產黨ノ勢力増大スルト共ニ國民府モ之ニ壓迫セラレテ一時影ヲ潛メタルモ支那官憲ノ共產黨彈壓嚴重トナルニ連レ國民府ハ其ノ手

先トナリテ共產黨壓迫ニ協力シ之カ爲メ共產黨ノ衰微ニ反比例シ
再ヒ勢力ヲ盛返シ共產黨ニ依ツテ蠶食セラレタル舊來ノ地盤ヲ回
復スルニ至レリ

昭和六年秋滿洲事變勃發後通化、海龍兩分館並ニ在安東領事館ニ
於テハ滿洲側地方官憲其他ト密接ナル聯絡ノ下ニ翌七年一月中旬
頃ヨリ二月中旬ニ亘リ相前後シテ數次ノ巡察及ヒ一齊檢舉ヲ行ヘ
リ即チ通化分館ニ於テハ一月二十日折柄國民府大會出席ノ爲興京
ニ集合中ノ國民府中央執行委員李鐘乾、革命軍司令長官金輔安、
同副司令張世湧、同獨立隊長李奎星、革命黨執行委員長李浩元、
革命軍第三中隊長田雲鶴外十九名ヲ一舉ニ逮捕シ海龍分館ニ於テ
ハ柳河地方ニ於テ國民府幹部朴永勳外七名及共產黨員十名ヲ檢舉

シ又安東領事館ニ於テハ革命軍隊長李振武同軍幹部李三賢、洪學
 淳、金泰默、李秉彪、安國享以下八名ヲ逮捕スルニ至リ（別表第
 一號表参照）斯クテ國民府並ニ革命軍幹部ノ主ナルモノハ殆ト全
 部逮捕セラレ事實上國民府ハ殆ト完全ニ潰滅シタルカ前記各公館
 ニ於テハ殘餘ノ分子ヲ徹底的ニ撲滅スルノ方針ヲ以テ引續キ檢舉
 ニ努力スルト共ニ一方前非ヲ悔ヒ歸順ヲ申出ツルモノニ對シテハ
 事情ノ許ス限り之レヲ容ルルノ方針ヲ以テ臨ミタル結果其後大勢
 ニ順應シ恭順ノ意ヲ表シ歸順シ來レル者十數名ニ及ヒタリ
 其後暫クハ南滿方面ニ於テハ不逞團ノ策動ヲ聞カサリシモ三月、
 滿洲新國家ノ創成セララルアリ内外多端ニシテ邊境ノ警戒手薄ナ
 ルニ乘シ新賓縣地方ニ於テモ反滿分子タル大刀會、抗日義勇軍、

馬賊等ノ跋扈スルニ及ヒ不逞團殘留分子ハ大刀會其他ト連絡シ（一證ニハ國民府司令長梁瑞鳳ハ金川縣内ノ大刀會ニ參加シタリト傳ヘラル）其ノ援助ヲ受クルニ至リ勢ヲ得テ決死隊、暗殺隊等ヲ組織シ地方在留民ヲ脅カスニ至レリ加之四月、通化事件（第二編第七章參照）勃發ハ是等不逞鮮匪暗躍ノ機會ヲ與ヘソノ勢力回復ヲ助成スルニ至レリ

此情勢ニ乘シ通化一帯ニ於ケル叛將遼寧民衆自衛軍總司令唐聚五ハ新賓縣旺清門ニ根據ヲ有スル國民府第一支隊司令宛六月九日附ヲ以テ

自衛軍組織以來各地同志之ニ參加シ其ノ勢力ハ益々大ナリ韓國同志モ我軍ニ參加援助セラレツツアルヲ以テ同志タル身分ヲ證

明スル爲茲ニ符號ヲ規定ス其ノ符號様式ハ幅三寸長サ四寸ノ白布ニ工作ト記入韓國革命同志ノ信號ヲ採印シ該同志ノ共同動作ニ出ル時又旅行等ノ際各路軍警ハ一應検査ノ上許可ストノ密令ヲ發シ不逞鮮人ヲ其ノ反滿運動ニ利用セムト試ミタリ通化事件以降ハ南滿及東邊道一帶ハ義勇軍及大刀會匪ノ對立關係並皇軍ノ活動ニヨリ國民府ノ勢力不派トナレルモ梁河山ナル者行政部總司令トナリ革命軍トシテ總司令梁瑞鳳ノ下ニ長銃又ハ拳銃ヲ所持スル五箇中隊約百五十名ヲ有シ別ニ皇軍及滿洲國軍ノ討伐ニ關スル情報蒐集ヲ目的トシテ約四十名ノ特務隊ナルモノヲ設ケ一般鮮農ニ對シテハ現大洋一圓六十錢乃至三圓六十錢ノ義務金其他ノ税金ヲ強徵シ依然蠢動ヲ續ケタリ

斯クノ如ク國民府ニ於テハ滿洲事變以來其ノ本來ノ主張タル朝鮮獨立ヲ抗日反滿運動ニ轉換シテ張學良ノ滿洲國攪亂陰謀團ニ與シ爾來專ラ此種諸團體ト行動ヲ共ニシツツアリシカ昭和七年七月上旬ヨリ同府有力者間ニ抗日運動ノ將來ヲ考慮シ年來ノ宿望タル朝鮮獨立ノ方針ニ復歸スルヲ要ストノ論擧頭シ八月五日新賓縣葦子峪ニ同縣ヲ中心トスル近縣各鮮農部落ノ代表者及國民府幹部ヲ招集シ獨立運動再建ノ秘密會議ヲ開催シ

- (一) 國民府ヲ中心トスル獨立政府組織ノ件
- (二) 獨立政府ノ軍隊編成ノ件
- (三) 各縣行政機關整備ノ件
- (四) 在滿朝鮮人團體ノ統一及國民政府トノ連絡ノ件

(五) 朝鮮現在ノ社會政治機構ノ攪亂破壊ノ件

(六) 財政方針及徵兵制度ノ確立並ニ役員選任其他ノ件

ヲ決議シ同時ニ獨立政府ノ所在地ハ通化若ハ新賓トシ其ノ形態ハ概ネ國民府從來ノ組織ニ準スルコトトシ更ニ國民政府並ニ在滿朝鮮人諸團體ニ獨立政府組織ニ付諒解援助ヲ求ムヘク交渉員ヲ派遣シ又「テロリスト」團ヲ組織シテ鮮内ニ派遣シ大官ノ暗殺、放火破壊等ノ作業ヲ決行セシムヘク決死闘士ヲ入選シ鴨綠江上流ノ日滿官憲ノ警備手薄ナル經路ヲ選ビ鮮内潛入ヲ企圖セリト傳ヘラル而シテ同年九月滿洲國カ帝國ニ依リ正式ニ承認セララルニ至ルヤ各地義勇軍ノ行動頓ニ活潑トナリ梁瑞鳳及梁河山等國民府ノ幹部ハ前記唐聚五ノ信任ヲ受ケ兩者ノ間ニ國民府革命軍カ義勇軍ニ參

516

加シ行動ヲ共ニスルニ於テハ將來義勇軍ノ地盤鞏固トナルヲ俟テ
革命軍ノ目的タル朝鮮獨立ノ爲十萬ノ兵ト武器ヲ貸與シ積極的ノ
後味ヲ與フヘシトノ趣旨ノ密約ヲ結ビタリト傳ヘラルルニ至レリ
然ルニ十月中旬東邊道ニ皇軍出動シ再ヒ跳梁セムトスル國民府
及革命軍ノ根據地ヲ突キ一大打撃ヲ加フルヤ其ノ勢力ハ大半ヲ削
カレ其ノ大部分殊ニ中間幹部以下四方ニ離散シ殆ト統制ヲ失ヒ幹
部恣瑞鳳、梁河山、高而慮以下在來ノ黨員等百名内外モ一旦遁走
セルモ再ヒ新賓縣下ニ潛伏シ隱然タル勢力ヲ持續シ皇軍撤退後ニ
於ケル再起活動ニ關シ畫策ヲ廻ラシ其ノ活動根據地ヲ新賓縣下四
道河子ニ移動スルト同時ニ根據地移轉並ニ爾後ノ勢力擴張費用ト
シテ現洋四千元ヲ計上シ軍資金募集員ヲ輯安、寬甸、臨江、長白

1016

SP. 190

撫松、通化、桓仁、新賓、金川、柳河、安圖、濛江ノ各縣及鮮内方面ニ派遣シタリトノ情報アリ又日本官憲ノ鮮農ニ對スル收穫現地保護ハ彼等ノ軍資金徵收ニ一大支障ヲ來シツツアルニ鑑ミ現地保護ヲ日本官憲ニ要請セル鮮農ハ革命軍ノ行動ヲ妨害シタル走狗ナルヲ以テ調査ノ上極刑ニ處シ其他ノ反對分子モ徹底的ニ痛懲ヲ加フヘク年内ニ革命軍二百乃至五百名ヲ新募シ之ニ充分ナル訓練ヲ與ヘタル上滿鐵附屬地ハ勿論鮮内ニモ派遣シテ軍資金ノ強徵ヲ爲スコト等ヲ決定シ更ニ滿鐵線破壞、日滿要人ノ暗殺計劃等ヲ策シ依然策動ヲ續ケツツアル模様ナリ（別表第三號表參照）

ニ北滿方面ニ於ケル狀況

北滿地方ニ於ケル朝鮮人ノ民族運動ハ中國共產黨ノ擡頭、共產派

朝鮮人ノ跋扈等ノ影響ヲ受ケテ昭和五年春以來頓ニ其ノ勢力衰退シタルカ同年五月共產黨ノ所謂五月工作ニ於テ寧安、東寧兩縣下敦化東滿地方暴動勃發以來支那官憲ノ共產派ニ對スル檢舉取締嚴重トナルヲ見ルヤ民族派ハ此ノ機ニ乘シ自派ノ地盤獲得、勢力挽回ヲ策シ巧ニ官憲ニ迎合シ共產黨取締ノ走狗トナリテ奔走シ一方韓族總聯合會、韓族自治聯合會或ハ住民會等ト稱スル各團體ハ興韓排日ヲ標榜シテ活動セリ

右ノ中金佐鎮一派ノ組織ニ係ル韓族總聯合會ハ昭和五年末迄海林ニ根據シタリシカ幹部ノ無能、住民反感ノ機ニ乘シ野心ヲ有スル朴來春等ノ主唱下ニ人民代表大會ヲ山市站ニ召集シ六年一月總聯合會ヲ解散シテ農務聯合會ト稱スル異名同體ノ團體ヲ組織シタル

モ問モナク内訌ヲ生シ三月ニ到リ農民黨ナルモノヲ組織シタルカ
 又々黨内ニ暗闘ヲ生シ朴來春派ハ他ノ幹部ヲ排斥シテ臨時人民代
 表大會ヲ開催シ更ニ十五名ヨリ成ル暴力團體韓守回團ナルモノヲ
 組織シテ會内外ノ反對分子掃討ヲ策シ之ニ反抗シテ成立セル民友
 聯盟ナルモノト争闘ヲ續ケツツアリタル處右韓守回團ノ幹部ハ滿
 洲專變勃發ノ機ニ乘シ十月早々哈爾賓地方ニ潜入シ十萬圓ノ募捐
 ヲ決行スヘク策動中右朴外一名ハ我當局ノ手ニ逮捕セラレ一大打
 撃ヲ蒙リ殘黨ハ内訌ヲ續ケツツアル中哈爾賓官憲ノ彈壓ニ遭ヒ主
 要人物悉ク四散シテ瓦解スルニ至レリ

又韓族自治聯合會ハ昭和六年二月珠河縣烏吉密河ニ於テ李青天、
 申肅等主唱下ニ組織セラレタルモノナルカ幾何モ無クシテ又々同

幹部間ニ内訌軋轢ヲ生シ一方同地河東朝鮮人部落一帯ニ潛伏セル多數共產黨員ヨリ脅威ヲ受ケ更ニ同年六月頃支那官憲ノ彈壓加ハリ主要人物逃走四散シテ瓦解セリ

更ニ阿城住民會ハ昭和六年二月同地在住朝鮮人カ朝鮮人共產主義者ノ壓迫及支那官憲ノ不法彈壓ニ堪ヘス自衛ノ爲メ李枝榮等主唱下ニ成立シタルモノニシテ多クハ純良ナル農民ヨリ成ルモ李枝榮ハ民族主義者首領連ト密接ナル關係ニ在リタル爲自然國民府系々統ニ屬スルニ至リ萬寶山事件以來排日策動ヲ續ケ來レルカ滿洲事變後我軍吉林ヲ占據スルヤ李枝榮等ハ之カ壓迫ヲ受ケテ哈爾濱ニ逃走中十月三日同地ニ於テ我當局ノ手ニ檢舉セラレタル結果其ノ勢力頓ニ衰退セリ

之ヨリ先滿洲事件勃發シ日支關係急迫スルヤ韓族聯合會首領南大
 綱及權守貞一派ハ元吉林邊防副司令配下ノ將校等ト策動シ更ニ韓
 族自治聯合會軍事委員李青天及國民府軍事派李東善一派ト聯絡シ
 時局ヲ利用シ在滿民族派ノ大同團結ヲ組織スルノ方策ヲ講スヘク昭
 和六年十月十八日韓族聯合會、國民府、韓族農務聯合會、朝鮮革
 命黨代表三十餘名ヲ東支沿線石道河子ニ招集シテ時局對策會議ヲ
 開催シ

一 韓族聯合會、國民府、韓族農務聯合會、朝鮮革命黨等聯合シ
 在滿韓僑總聯合會ヲ組織シ同會内ニ聯合宣傳部及聯合總重部ヲ
 設置スルコト
 一 聯合宣傳部ハ在滿朝鮮人民族派ノ大同團結ニ關スル對内宣傳

ヲ爲シ聯合總軍部ハ同四團體ノ軍事派ヲ聯合シ之ヲ基礎トシ東支沿線ヲ中心トシテ軍隊ノ養成ヲ爲シ支那軍隊ト共同戦線ヲ張リ日本軍ニ敵對行動ヲ執ルコト

一 聯合總軍部ハ元吉林邊防副司令王重法科長配下ノ陸軍將校ノ指揮ヲ受クルコト

一 聯合宣傳部及聯合總軍部費用ハ支那側軍部ノ援助及北滿地方在住朝鮮人富豪等ノ義捐金ニ依リテ支出スルコト

一 武裝及被服ハ前記支那陸軍ヨリ支給ヲ受クルコト

等ヲ決議ノ上石頭河子ヲ根據トシテ饒河、虎林、密山、同賓、東寧及寧安ノ各地ニ亘リ軍事部員ノ募集ニ著手セリ

然ルニ右南大觀、權守貞等ハ皇軍ノ吉林占據ノ結果東支東部沿線帽

兒山方面ニ逃走シ同地ニ於テ再起ヲ策シツツアリシカ張學良及張作相系一味カ昭和六年十一月賓縣ニ反吉林政府ヲ樹立シテ吉林臨時政府ヲ僭稱シ猛烈ナル排日策動ヲ開始スルヲ見ルヤ之カ幹部ニ欸ヲ通シ其ノ諒解援助下ニ排日ヲ策謀シ元韓族自治聯合會幹部タリシ李青天、申肅等ノ主要人物ト合シテ阿城縣大吉河ニ韓國大獨立黨ナルモノヲ組織シ李青天ヲ總司令トシ南大觀ヲ副司令トスル韓國獨立軍ナルモノヲ編成シ（別紙第三號參照）別ニ黨内ニ救國軍後援會ナルモノヲ組織シテ反吉林軍ニ對シ軍資金ヲ募捐獻金スルト共ニ盛ニ排日運動ニ努メタリ

他方國民府首領金履大、李鐸等モ我軍ノ吉林進出ノ結果同地ヲ脫出シテ北滿方面ニ潛入シ等シク東支線東部沿線地方ニ在リテ再起ヲ圖

リツツアリシカ前記吉林臨時政府ナルモノ組織セラルルヤ二十餘名
 ヨリ成ル武装隊ヲ率キテ同政府ニ到リ之ト妥協ノ結果其援助下ニ朝
 鮮革命軍ヲ組織シ（別紙第四號表參照）李鏗ヲ總司令金履大ヲ副司
 令トシ賓縣二道河子及松鳳山三川宮地方ニ根據シテ叛軍ニ對スル募
 捐ニ従事スル等頻リニ策動ヲ續ケタリ其後昭和七年一月下旬吉林軍
 ト丁超一派ノ反吉林軍トノ抗爭激化シ吉林軍中ノ一部反吉林軍ニ變返
 リ北滿ノ情勢危殆ヲ告ケ皇軍哈爾濱出動スルニ至ルヤ、李青天等ヲ
 幹部トセル韓國獨立軍ハ丁超軍ヨリ武器ノ支給ヲ受ケ隊員ヲ募集シ
 テ日本側機關ノ破壊、日本要人ノ暗殺等ヲ企圖シ地方混亂ノ機ニ乘
 シ屢次哈爾濱市内ニ潛入シ朝鮮革命軍一派モ東支東部沿線ニ在リテ
 反吉匪軍ト策應シテ反日軍事行動ニ參加シタルカ反吉聯合軍ノ敗走

ト共ニ東支沿線各地ニ遁走シ其後哈市方面モ漸次平靜ニ復歸シ次イテ新國家建設ニ及ムテ地方ノ政情全ク一變スルニ至リタル爲一時反吉林派ニ欸ヲ通シテ策動シ來レル不逞鮮人ニシテ當局ニ對シ恭順ノ意ヲ表シ自首申告シ來ル者續出スルニ至レリ

而シテ以上ノ不逞團ハ其後モ離合集散ヲ繰リ返ヘシツツ隨處ニ蠢動ヲ續ケツツアリタルカ二月下旬韓國獨立軍ニ李青天一派ト洪震一派トノ間ニ内訌ヲ生シ李青天派ハ予超ノ軍隊ニ偏入セラレ韓國獨立聯隊ヲ稱シテ三姓、富錦方面ニ構行シ洪震一派ハ劉萬魁ノ救國軍ニ投シ寧安縣高麗嶺子、新安鎮方面ニ蟠居シ又前記朝鮮革命軍ノ別働隊タル柳東悅一派ハ木蘭縣ニ在リテ馮占海ノ叛軍ニ參加シ抗日反滿軍事行動ヲ續クル等其ノ暴威一時侮ルヘカラサルモノアリタルモ其後北

滿各地ニ亘ル皇軍ノ大討伐開始セラレ又三月末以來東支南線陶賴昭
ヲ初メ一面坡、海林、寧古塔其他數箇所ニ我カ警察分署又ハ派遣所
ヲ開設シテ警戒及取締ヲ嚴ニシタル結果其ノ統制漸ク亂レ加フルニ
叛軍側トノ軋轢又ハ同志間ノ内訌等モアリ勢力著シク衰頹シ最近ニ
於テハ輿地方阿片地帶等ニ根據シテ總カニ餘喘ヲ保チツツアル狀況
ナリ

別表

第一號表

南滿地方檢舉鮮匪氏名表

通化	館名	檢舉公	逮捕	所	屬氏	名	年令	押收	不穢	文書	武器	逮捕地名
員長	朝鮮革命黨執行委	李浩源	四二	不穢	文書	三	三	新	賓			
執行委員長	朝鮮革命黨組織部	李鐘乾	四六	同彈丸	銃	四一	〇二	四				
革命黨軍事委員會	金俊澤	四四	ブロン	ダ	拳銃	三						
委員	革命黨軍司令長	無名										
革命黨勞働部	執行張元濟	三一										
委員長												
革命軍獨立小隊長	李奎星	四二										

SP. 190

1027

三	二	一	三	一	二	三	一	一	三
九	二	同	一	同	〇	八	〇	一	八
同	同	同	同	同	革命軍獨立小隊長	革命第三中隊小隊長	革命黨員	革命軍第二中隊副官	革命軍第二中隊長
第一中隊上等兵			第二中隊兵卒		洪宗浩	車用陸	洪淳弼	洪規晨	朴致萃
洪明俊	宋泰萃	金漢聖	元宗三	金永哲	二一	四一	三五	三八	三七
二四	三三	二二	二二	二一					
	新賓	新賓	新賓	新賓	新賓	柳河縣	新賓		新賓
安縣 董沙河		媽々 伙兒	黃土崗子			三源浦			黃土崗子

SP. 190

1027-1

通化

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
第四中隊參士					第三中隊兵卒	第二中隊參士			兵卒
金東翼 三七	徐百滿 二〇	李炳道 二〇	李錫山 二三	趙景三 二〇	金太陽 二三	金春 二二	尹應浩 二四	苜時彥 一九	朴一昌 二三
									韓貞節 二〇

外子 龍安縣蒼沙河頭

通化縣高麗茂子

柳河縣三源浦

SP. 190

1028

二一七	國民府輯安地方財務執行委員	張世節	二六
二一五	革命軍第四中隊小隊長	姜春淹	二八
二一六	國民府中央執行委員	劉東錫	三三
二一六	國民府興化地方執行委員長	朴春根	三七
同	同	崔時根	三一
二一六	輯安地方區執行委員	崔德龍	三九
同	同地檢務員	安龍寬	三九
通化	桓仁地方財務執行委員	姜淵碧	三一

新 賓

通化縣高麗茂子

興化地方財務執行委 員	興化地方警務員	興化地方警務員	興化地方警務員	革命軍第三中隊副官	革命軍第三中隊	國民府興化地方書記	國民府興化地方第三 區執行委員長
金奎三 三九	吉永燁 四四	承鳳植 四四	林得春 二三	黃奎清 三〇	元兵	金東宇 二五	朴順福 三一

新
賓

通化	一〇〇	全 柳河地方財務執行委 員	金東豪 四〇	柳 河
海龍 三三	革命軍中隊長 革命軍副司令	田雲鶴 四五 張世湧 四二	新 賓	吉林省濛江縣
同 第三中隊參士	許長孫 二三	梁俊圖 三五	吉林省濛江縣	吉林省濛江縣
同 兵卒	趙秉秀 一八	金明山 二三	磐石縣黑石鎮	磐石縣黑石鎮
三二	/	白元心 三七	磐石縣黑石鎮	磐石縣黑石鎮
三二	/	文成珏 三七	磐石縣黑石鎮	磐石縣黑石鎮
三二	/	金春山 三六	磐石縣黑石鎮	磐石縣黑石鎮

海龍

四

中共黨滿省海龍中 心縣委第一區 組織部長	同 宣傳部責任	同 第三支部責任	同 赤衛大隊長	同 第一區青年團組織 部長	同 青年部宣傳部長	同 先鋒隊第二分隊長	同 第一區委員
張在旭三一	金義元二四	李鶴三一	鄭童二九	韓容達一八	權石泰二二	徐在浩三一	李俊泰二二

海龍縣四八石

員	同	同	同	同	同	同	長	同	道	海龍
第三區財務執行委	同柳河地方	同兵卒	同十家長	同柳河地方公所檢察	同第三區警務員	國民府	第三中隊兵卒	第二區先鋒隊分隊長	中共黨農民協會書記	海龍縣北山城
金俊英二六	申福雨二二	崔德亨二三	王允彬二六	朴永勳二四	李春堃三一	鄭雲惠二〇		崔永德三一	崔泰山二〇	子
五道縣	五人班	下水道子		柳河縣邊沿兒	子金川縣涼水河	柳河縣孤山子		海龍縣四八石		

SP. 190

1033

海龍	一五	中共黨滿委 農民協會青年部員	金範伊	二一
先鋒隊分隊長	同	同	金海植	一八
童子團中隊長	同	同	金泰植	一六
安東 革命軍隊長	一〇	在滿朝鮮人 革命軍隊長	李振武	三三
同	同	同	李三賢	三三
同	同	同	洪學淳	二九
同	同	同	金泰默	三七
同	同	同	李秉彰	二九
同	同	同	安國享	二四
同	同	同	尹河連	三〇

海龍縣四八石
磐石縣烟筒山
安東

536

		安東
一	一	一
六	三	三

李月老三八	韓聖杰二四	朴仁弘二七
-------	-------	-------

		安東
--	--	----

SP. 190

1035